

## 3つのポリシー

## 健康科学部

## 〔ディプロマポリシー〕

健康科学部のディプロマポリシーは、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリーで構成されます。学位授与の規定は、2学科が定める所定の単位を修得し、学士力、専門職能を身に付け、女性のもつ能力を活かした専門的職業人としての使命感や責任感が持てる者であることが重要となります。さらに、多世代にわたる対人関係力を身に付け、社会の一員として適切な行動ができている者に学位を授与します。

## 〔カリキュラムポリシー〕

本学部は、建学の精神であり学園訓である「親切」を根幹としており、教育課程では、「個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った力強い職能人としての女性を育成する」ことを目的としています。これを達成するため、第一に、学士力向上を目標として教養科目、外国語科目などを医療科学部・家政学部・児童教育学部と可能な限り共通で設け、幅広い視野に立った豊かな人間性を育成します。第二に、2学科それぞれに多くの専門科目を設置して体系的な教育課程を実現しつつ、有機的連携を保ちます。健康栄養学科においては、将来管理栄養士として活躍できる人材を養成するために必要な専門科目を多く設置し、国家試験合格を支援しています。看護学科においては、健康科学についての基本的な認識を土台として、看護の職務を遂行する上で必要となる専門的な知識と技術の修得のための専門科目を多く設置しています。学部全体（学士課程）では、女性として活かしたコミュニケーション能力をもち、専門職域のリーダーとして社会貢献のできる人材を育てるための教育課程を編成しています。

## 〔アドミッションポリシー〕

本学は、長年にわたり学園訓「親切」を根幹として、個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に付け、真の男女平等の実現を目指し、よき家庭人であり力強い職能人としての女性を育成してきています。これらの教育目的を達成するため、健康科学部は、健康栄養学科および看護学科の2学科を設置し、人々の健康の維持・増進、疾病の予防・治療に食領域、そして看護領域から貢献できる知識と技術を身に付けられるよう教育しています。健康栄養学科では、各ライフステージにおける健康課題について食領域の立場から追究し、さまざまな対象者に応じた食支援を科学的根拠に基づいて実践できる管理栄養士を育成しています。看護学科では、『人』『いのち』『健康』『生活』『看護』に関心をもち、生命の尊厳や人の価値観を理解し、人を尊重できる「感性と倫理観をもつ人間力」と、科学的根拠に基づき、関連学術分野との連携・融合した実践ができる「的確な看護実践力」を育成しています。

両学科とも、自立した女性であり、同時に、学科のもつ専門的職業人として社会貢献をしたいと願う人材を求めています。

## 看護学科

## 〔ディプロマポリシー〕

本学科所定のカリキュラムを修了するとともに、以下の資質を身に付けた学生に卒業を認定し、学士（看護学）を授与します。

## 1) 知識・技術

看護に必要な基礎的知識を身に付け、看護分野における専門的知識・技術を広く学修することができる。

- (1) 看護について科学的根拠に基づく正しい知識・技術を修得し、保健・医療・福祉・教育等の場において、それらの知識・技術を活かすことができる。
- (2) 豊かな人間性をもち、医療専門職者に必要とされる「人間および生命の尊厳」に関する知識・技術を修得することができる。

## 2) 思考・判断・表現

科学的思考力のもと、効果的に看護を実践するため、人々の健康に関する課題を把握し、問題を解決するための思考力と判断力、自分の考えを表現する能力を身に付けることができる。

- (1) 看護の対象となる人を全人的にとらえ、科学的・論理的思考に基づいて判断し、人々の健康に関する課題を解決することができる。
- (2) 自己理解を深め、基本的な表現力を獲得し、他者とのコミュニケーションを図ることができる。

## 3) 主体性・多様性・協働性

保健・医療・福祉・看護に関する総合的な視野をもち、専門的知識や技術を獲得するために主体的に学修を続け、多面的な観点から問題に取り組み、保健医療チームの中で協働することができる。

- (1) 地域的・国際的動向に関心をもって学修を続け、保健・医療・福祉・看護の課題に対して主体的に取り組むことができる。
- (2) 複雑化した健康問題に対して、多様な角度から情報を収集・分析し、多面的な観点から健康問題を解決できる。
- (3) 保健・医療チームの中で多職種と協働的にコミュニケーションをとり、専門職として責任ある行動がとれる。

[カリキュラムポリシー]

### 1 教育課程の編成目標

ディプロマポリシーに掲げた目標の達成に向け、看護学の領域はもとより、特に、医療系職能育成における専門知識と技術、科学技術の進展やグローバル化に対応できる専門知識と技術を修得し、多職種とも連携できる看護専門職者としての能力を育成します。

また、教育課程においては、本学の強みである“人の生きる力を創る幼児教育”と“人の生きる力の基本を創る『食と生活』の健康栄養学”の異分野融合による特色ある教育を目指します。

- 1) 大学での学びの導入として、初年次セミナーを1年次において履修し、大学生活における学修の目標を見定め、専門科目の履修目的の確認やモチベーションの高揚と総合的に“人”“生活”を捉え多面的なケアを担う基礎を目指します。また、「学士力」育成を目指し、人間形成、一般教育、外国語、情報・表現などのカテゴリーに分けた全学共通科目を可能な限り選択できるように科目を配当します。
- 2) 学園訓「親切」の心をこれまでの100年とこれからの100年をつなぐ役割を担い、その心を未来に橋渡しするという考え方を基盤として、「人間」「環境」「食」「福祉」「健康」「看護」の概念のもとに「看護学」を構築します。
- 3) 医学・保健学・福祉学などの近接領域の知識や技術を身に付けることをねらいとし、「健康と食」「健康と心」「健康と支援」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復促進」の5領域で体系化しています。この科目内では、本学の特色である『食と生活』に焦点を当てた、噛む（『食=噛む』）ことと脳の活性化や、噛む力を維持するための口腔ケアなども学ぶ授業展開とします。
- 4) 健康栄養学科との連携を図るため、二段階で学科間連携科目を設置します。第一段階では「健康の基盤は栄養であること」を重視した基礎的な必修科目群を開講し、第二段階では臨床的観点から栄養学を学修するための学科間連携科目群を選択できるよ

うに環境を整えます。

## 2 教育課程の編成と特色

### 1) セメスター制と GPA

セメスター制を導入し、一年を前期と後期に分け、半期ごとに完結する授業を行います。これにより、学生は半期ごとに単位履修状況を見直すことが可能となり、GPA(Grade Point Average)を活用した学生指導を充実させることができます

### 2) 学修成果測定

- (1) ルーブリックによる学修成果の可視化。
- (2) 学修ポートフォリオによる学修成果の蓄積。
- (3) 年次で学科が必要と定めている教科目の修得結果が、学科の定める規準を満たし、3年次以降の教科目を履修する基礎レベルに達しているかを確認する進級基準を設けます。
- (4) 看護師が必要とする学修成果や学修達成度、専門知識・技術に関する「卒業研究(発表・論文)」の講評。

### 3) 学習環境

- (1) 看護師・保健師の国家試験受験資格取得に必要な科目配置を行います。
- (2) 授業担当者とクラス担任の緊密な連絡と情報交換により、きめ細かい指導を行います。
- (3) 授業以外における看護基礎技術のきめ細かい指導を行います。
- (4) 授業時間以外の基礎看護学実習室・成人看護学実習室の開放を行います。

[アドミッションポリシー]

## 1 教育目的・人材育成目標

学園訓「親切」の下、『人』『いのち』『健康』『生活』『看護』に関心を持ち、生命の尊厳や人の価値観を理解し、人を尊重できる「感性と倫理観をもつ人間力」と、科学的根拠に基づき、関連学術分野との連携に融合した実践ができる「的確な看護実践力」を持った看護専門職者を育成します。したがって、本学の建学の精神『親切』ならびに本学の教育理念を理解し、看護の実践者・研究者・教育者として、社会に貢献できる人材の育成を目的としています。

### 2 求める学生像

- 1) 看護学に関する知識や技術の基礎として、高等学校の学習科目のうち化学や生物を中心として幅広く履修し、看護学を学ぶための高等学校卒業レベルの基礎学力を持つ者
- 2) 人の意見を聞き正確に理解し、自分の意見や考えを的確に表現できる者
- 3) 看護学に関する事柄に関心を持ち続け、他者を理解し、協調する姿勢を身に付け、社会貢献できるコミュニケーション能力を高めることを目指す者
- 4) 4年間の学修の成果を実践し、看護師、保健師、助産師など専門を生かした職業を目指す者
- 5) 人を取り巻く様々な現象に疑問を持ち、主体的に学ぶ姿勢をもっている者